

# 仙台育英学園 同窓会々報

第29号  
 仙台育英学園同窓会  
 仙台市宮城野区2-4-141  
 TEL 56-4141  
 仙台育英学園事務局長  
 渡辺伊予士  
 編集人 伊予士  
 発行人 トーヨー  
 印刷所 株式会社  
 TEL 25-8771

## わが母校開校より八十年 記念すべき年を迎える

### 母校

#### 創立八十周年を 迎えて

同窓会会長  
小坂 信雄

母校仙台育英学園が、創立者加藤利吉先生が遠大な教育の理想をもって創立されてから八十年の輝ける年を迎えましたことは、



創立者 加藤利吉先生

### 仙台育英学園高等学校

#### 創立八十周年を祝う

——二十一世紀への呼びかけ——

学校長 加藤 昭

仙台育英学園高等学校は、今年創立八十周年を迎えることになりました。傘寿の手であり、本学園にとり記念すべき年でもあります。思つに、本学園の創立者加藤利吉先生が、私塾準備

余儀なくされ、やがて長町小学校での間借り授業となりました。国内は、敗戦の衝撃の虚脱で混乱の巻と化しインフレーションによる経済不安は極に達している中で学制改革が行なわれ昭和二十四年四月高等学校がスタートしたのであります。

生徒の心身の錬成のため施設の拡充、また現代の情報化時代に即応するための電子機器施設機材の導入、図書館の充実など現代社会の要請に対応出来る人材や、現代の青少年に欠如している社会性、協調性など人格の陶冶などため充実強化が図られております。

このような激動の渦の中にあって、現宮城野校地・校舎の建設のための関係者の苦難は想像を絶し、筆舌に尽し難いもので昭和二十四年に新校舎が落成した時の加藤利吉先生のお喜びは如何ばかりであったかと拝察いたしております。

また、母校は新たな時代に対応するための人材教育のため昨年度より全日制普通課程総合コースを導入し、低学年においては基礎教育の徹底化を図り、また国際感覚を深めるために外国語教育コースを設定、ここには女子生徒も入学させ海外留学など国際交流の教育など教職員が一体となってこれに当り着々と成果を挙げ囀望されていくことは心強く感ずるところであります。

- ① 「育英塾」創設時代
- ② 終戦前後の苦闘時代
- ③ そして現在

「育英塾」創設のころ、加藤利吉先生のもとに集まった当時の青年たちは、みな個性あふれるチャレンジャー精神に富んだ若者たちであったろうと思ひます。ひとりとひとりの独自の要求、目標を持って修学したのであると思ひます。先生はそれらに添いつつひとりとひとりの個性の充実と全力を尽くされました。この教育精神は脈々と今日まで流れてきています。学校長に就任して来進めさせた「知・徳・体三位一体の教育」の根源は実はここにあるのであります。

このことは宮城県下初の試みであり、今年で二年たになります。多様な生徒のニーズに応えるため、次の課程・コースを置いてあります。

終戦前後の歴史を通して「校地の確保・施設設備の充実」のきびきびと重要なを学びとりました。就任以来の努力が実り、ご承知のように、「宮城野セクション」・「松島研修センター」・「多賀城育英グラウンド」等、天下に誇り得る教育の場を持つようになりました。

- 普通課程総合コース
- 進学英才教育の場
- 特別進学課程（二年次から）
- 普通課程総合コース
- 国大進学コース（二年次から）
- 外国語コース（二六一年度より女子募集）
- 教養コース（二年次のみ）
- 文理進学コース（二年次から）
- 簿記進学コース
- 情報処理コース
- 体育コース（二年次から）
- スポーツの振興

そして今、過去を背負い未来をほらむ現在、本学園への復帰、「知・徳・体三位一体の教育」の推進、「二十一世紀の展望」等の三本柱を踏まえて、学園経営を進めております。次にその大要を述べることになります。

以上、本学園教育の現状の概略を述べまいりました。同窓会の皆様様に倍旧のご理解と協力をお願いいたしますとともに、皆々様と共に、創立八十周年を心からお祝いしたいと思っております。



## 80年の歩み

普通校旗

発祥之地

昭和10年頃の校舎

校旗（現在）

死戦を越えて

商業校旗

昭和24年頃の校舎

旧制仙台育英中学校校旗

昭和14年頃の校舎

昭和30年頃の校舎全景

